



青森県へ現地調査に行ってきました

8月7日から9日まで青森県へ現地調査に行ってきました。マニフェスト大賞を受賞した葛西憲之弘前市長の選挙公約と実現への取り組みやマニフェスト政策遂行にあたり、県・国との連携、協力、今後の課題、問題点について懇談しました。また、青森県庁では県農林水産部食の安全・安心推進課の「日本一健康な上づくり運動」や国際経済課の県産農林水産品の輸出拡大への取り組みについて調査しました。青い森鉄道(株)(東

北新幹線並行在来線)は県が68.8%出資の第三セクター鉄道会社です。会社概要、経営状況、貨物調整金による支援状況、経営改善に向けた取り組み等についてお話を伺いました。最終日には、三沢市役所、三沢基地を訪問。基地の概要、基地周辺の生活環境、問題点と効果、基地周辺の生活環境、民政安定対策等の概要等についてお話ししました。これからの課題である北陸新幹線の並行在来線の問題や農商工連携等、参考にしてまいります。

佐々木祥三会派副会長が 県議会第90代副議長に就任。

- ・高橋 宏
(長野市選出) 危機管理建設委員会
- ・向山 公人
(伊那市選出) 総務企画警察委員会
- ・佐々木 祥二
(駒ヶ根市選出) 副議長
- ・鈴木 清
(長野市選出) 健康福祉委員会・議会運営委員会
- ・金子 ゆかり
(諏訪市選出) 農政林務委員会(委員長)
- ・宮本 衛司
(飯山市・下水内郡選出) 文教企業委員会

「県政ながの」は県民の声を大切に

- ★各地区支部事務所は県民の広場です。気軽にお立ち寄りください。
- ★少人数のミニ集会でも県政報告に伺います。皆様の要望もお聞きし、県政に反映させます。

斑尾線全線開通にむけ工事始まる！



4.30 流出した土砂により塞がれた道路

4月29日に飯山斑尾新井線分道上部で土砂崩れが発生し、29日深夜から30日未明にかけて大量の土砂が流出し、完全に道路がえぐり取られ、寸断され、そのまま下の道路を塞ぎました。その後、懸命な復旧作業により、5月17日には分道地区までは通行可能となりましたが、上段については、5月1日に伸縮計による観測を開始し、5月7日から調査ボーリングに着手、5月18日からは変動調査を実施し、5月18日からは6月定例会にて一般質問で取り上げました。(答弁詳細については裏面参照)

「この県道は分道と斑尾の皆さんの生活道路であり、通学道路である。斑尾高原を訪れる観光客の多くは大型バスを使い、また送迎も大型バスで行っている。スキーシーズンの予約は間もなく始まり、スキーシーズン開幕までに復旧を強く望む。」知事、建設部長から「現在は土砂の動きはなく、小規模な状態を保っているが、降雨による影響を把握するため梅雨時期を通じて調査を行い道路復旧の対策を決定する。国と鋭意協議を進めており、スキーシーズンに間に合うように道路復旧工事を行っていく。」との回答がありました。それを受け北信建設事務所により復旧工事が始まったところです。何が何でも降雪時までに完成していただくと、これからは強く要望して参ります。全面開通の日が待たれます。



5.17 下側道路が通行可能に

活動あれこれ



5.31 総務企画委員会現地調査 新幹線工事



5.28 定例会合前にて、かんたんな選挙(仮称)対策に向けての働きかけ調査、白井町二北選区選挙対策委員会のもと、小田原副知事、葛西副知事にがん治療の改善や県への要望について御意見を伺いました



7.6 土地改良事業研究会役員で知事に要望書提出



6.25 「第10回議会改革調査会」

残暑御見舞い申し上げます



7.29 盆踊り大会

毎日暑いが続いていますが、皆様健康にお過ごしでしょうか。年々歳々夏の暑さが堪えるようになってきたのは、地球の温暖化でしょうか、はたまた加齢のせいかと考えてしまいます。

今冬は18年豪雪に匹敵するともいわれた雪の量でしたが、雪解けと共に各地で融雪災害が多発しました。4月27日には戸狩温泉スキー場周辺上部の山で土砂崩れが発生、住宅やゲレンデに土砂が流れ込まないよう土嚢積みをした直後の4月29日には飯山奥尾新井線分道

上部で土砂崩れが発生しました。小康状態にあった現場は29日深夜から30日未明にかけて大量の土砂が流出し、完全に道路がえぐり取られ、寸断され、そのまま下の道路を塞ぎました。その後の北信建設事務所・飯山事務所、地元建設業者による懸命な復旧作業により、5月17日には分道地区までは通行可能となりましたが、全面復旧までにはまだ時間がかかるようです。他にも静岡宝蔵地区、上越飯山線等々、雪解け水によるとみられる災害が発生しています。栄村では、昨年の地震による田や畑の復旧も完全に終わらないところへ今回の融雪による被害が重なったところもあり、県では各地の状況を見ながら一日も早い完成に努めています。私も安心・安全な地域づくりに関しても頑張っております。

6月定例会一般質問から

○自衛官の県採用について

●昨年11月定例会で、知事から前向きな答弁をいただいた。業務内容や採用時期等、現在の進捗状況はどのようになっているか。

(危機管理部長) 本県の危機管理防災体制を強化する観点から、自衛官としての災害対応の体験や専門的知識を活かすことは有益なもの。採用後の主な担当業務は、災害発生時の自衛隊派遣に係る連絡・調整、被災地における支援の連絡・調整、防災訓練や国民保護訓練の計画と実施、研修会開催や各種防災マニュアルの策定への支援を予定。8月からの危機管理部への配置を早速に準備を進めている。

○飯山奥尾新井線の地すべり災害について

●この地すべりの発生原因と今後の対策について。

(建設部長) ヘアピンカーブのところから約60mにわたり崩落。



今冬は平成18年以來の大雪となり、現尾では最大積雪深352cmと過去5年の平均の1.7倍となった。

さらに、4月半ば以降の気温上昇で一気に融雪が進んだことにより、大量の雪解け水が地下に供給され、地下水の急激な増加を招いたことに原因があると考えている。現在、地すべり面や地下水位の変動調査を実施中であり、対策については国と協議中。

●復旧までのスケジュールを具体的に。

(建設部長) 5月1日に伸縮計による観測を開始し、5月7日から調査ボーリングに着手、5月18日からは変動調査を実施。現在は土砂の動きはなく、小康状態を保っているが、降雨による影響を把握するため梅雨時期を通じて調査を行い道路復旧の対策を決定する。国と鋭意協議を進めており、スキーシーズンに間に合うように道路復旧工事を行っていく。(知事) 県道の復旧工事については、必要な調査を行い、原因や規模を良く見極めなければならないが、スキーシーズン前までには通行ができるよう最大限の努力をしていきたい。

○新たな県立大学について

●県立大学設立準備委員会の議論について。

(総務部長) 準備委員会ではこうした経緯を踏まえ、大学像を具体的に検討中。今までの「新県立大学についての考え方(たたき台)」として事務局から提出した資料では、新たな大学を設置する主旨として、県が果たすべき役割として、「高等教育を受ける機会の充実」「地域を担う人材の育成」「地域振興・活性化への貢献」を明記した。また、大学の理念として「地域の持続的活力を生み出す中核的人材の育成」を掲げている。多くの委員から「県内高校生の入学選抜に関する工夫の工夫」や「長野県の地域課題解決への貢献」「地域社会で活躍する人材の育成」等の趣旨について提言をいただいている。



5.29 長野県短期大学で上級学長と

●新たな県立大学の学部・学科について。

(総務部長) 新たな県立大学において、県短期大学の伝統や資産となる良いところを活かすというご指摘は、もっとも。昨年度に出された将来構想においては、県短期大学を抜本的に改革し新たな4年制大学に改組するとしている。

この将来構想という成果を踏まえ、現在設立準備委員会において、「グローバル社会を生きるための実践力を身につける」などの新たな時代の要請に対応していくことができる、そういう大学を大学像として検討している。

地域を担う人材の育成や地域振興活性化への貢献、そうしたことのできる大学を設置していくことが必要。

●開学の時期と設置場所について。

(知事) 準備委員会の中で検討中。

50年後・100年後、こういう大学があって本当に良かったと、多くの人に思ってもらえるようなものにしたい。また、大学を目指す県内の子供達にも魅力的な大学にと言ったことが私に課せられた使命と思っている。

準備委員会皆さんには様々な角度から、根本的なことまで含めて議論していただいている。長い目で考えたときに望ましい大学とはいかにあるべきか考えていきたい。

○森林づくり県民税について

●継続を表明に至った経過と理由。

(知事) 里山の整備が着実に進んできている。

長野県の森林はこれから県としてしっかり活用し、次世代に引き継いでいくものと考えている。次年度以降も県民の皆様に負担をいただきながら、課題に正面から取り組んで行く。



6.9 第63回長野県民税

●次期森林づくり県民税の、今後のスケジュールは。

(林務部長) 現在検討中の使途等については、7月中旬に長野県地方税制研究会の最終報告を受け、県として早急に基本的な案を取りまとめ提示したい。8月にパブリックコメントや各地域単位での説明会の開催、その後、いただいた意見を慎重に検討し、11月定例会に改正案を提出予定。

●施策と事業内容について。

(知事) 林業の活性化、地域の自立的な発展という観点が必要だと考えている。県地方税制研究会からも兼出開伐についても支援を広げるよう方針を転換すべきではないかとの意見を聞いている。開伐材の利活用ということも含め、一定の財源をどういった形で配分するのが効果的か、超過課税と標準課税の各部分でどのように取り組んで行くべきか、という観点で方向付けをしていきたい。

活動あれこれ



7.1 野々田大町祭



8.3 秋の子どもお祭り(飯水地区)



8.4 いっしょに読書まつり



4.9 飯水地区子供会 夏祭りに参加